

# 漁海況情報第6報 (2024年11月15日発行)

宮城県水産技術総合センター

連絡先：0225-24-0139

※本報は「<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>」でも公開中です。



## 1. 海況

**宮城県沿岸一帯は黒潮続流から波及する暖水に覆われ表層の水温は20℃程度まで再び上昇しています。**

黒潮続流は現在、宮城県東沖約100kmを北上しその北端は岩手県北部に達していると思われます。宮城県へは黒潮続流から暖水が波及しており、沿岸定置水温は昨年同期よりは低めですが、平年よりは高めになっています。

親潮第一分枝については、前年よりは優勢ですが、八戸沖の暖水塊と津軽暖流に阻まれ三陸沿岸へ南下しにくい状況となっています。

宮城県沿岸の表面水温は、気温の低下とともに降下し20℃を下回りました。

しかし、黒潮続流から波及する20℃を超える暖水が宮城県沿岸に迫っています。そのため、江島の定置水温は、再び20℃を上回ってきており、他の観測点でも水温の動向に注意が必要です。

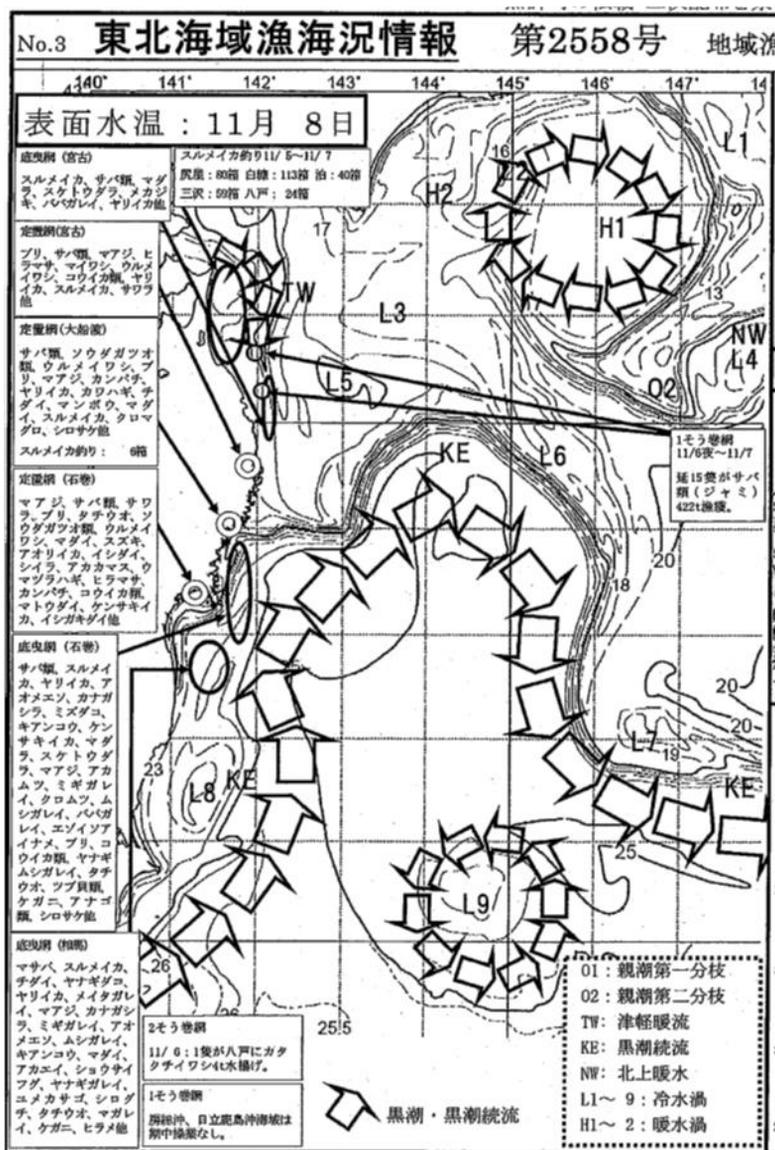
定置水温のこれまでの推移は次頁以降をご覧ください。

また、毎日の観測結果については、次頁に記しましたが、「みやぎ水産NAVI」をご覧ください。

## 2. 漁況

**「金華さば」シーズン到来が宣言されました。**

10月30日石巻魚市場に水揚げされたサバが脂肪含有量等の基準を満たし「金華さば」シーズンの到来が宣言されました。



東北海域魚海況情報より抜粋

漁業情報サービスセンター 11月8日発行

## 表面水温分布状況

仙台湾周辺の表面水温（図1）は概ね17～20℃の範囲で朝晩の気温の低下等により、岸寄りでは先月よりも2℃程度低下しています。

平年（過去30年平均）との比較（図2）では、1～4℃高めとなっており、沖側から暖水が波及してきていることが伺えます。極端に高水温であった昨年同時期と比較すると仙台湾奥部では2℃程度低くなっていますが、沖側は昨年と同程度となっています（図3）。

今後も暖水の波及が継続すれば仙台湾内も20℃程度まで水温が上昇するものと思われます。

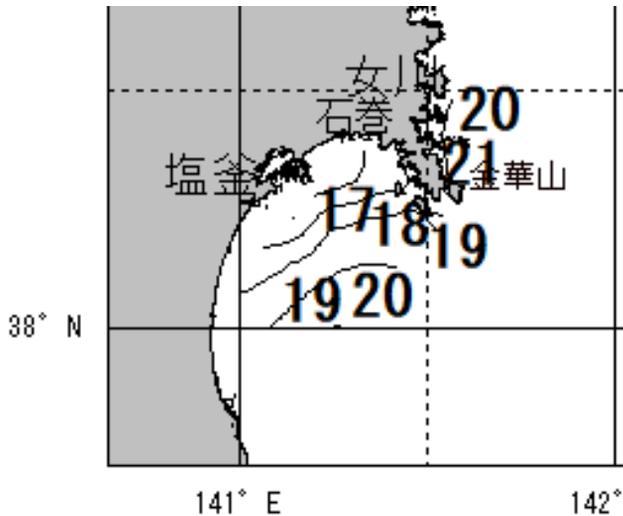


図1 表面水温分布図  
(2024年11月8日～11月14日)

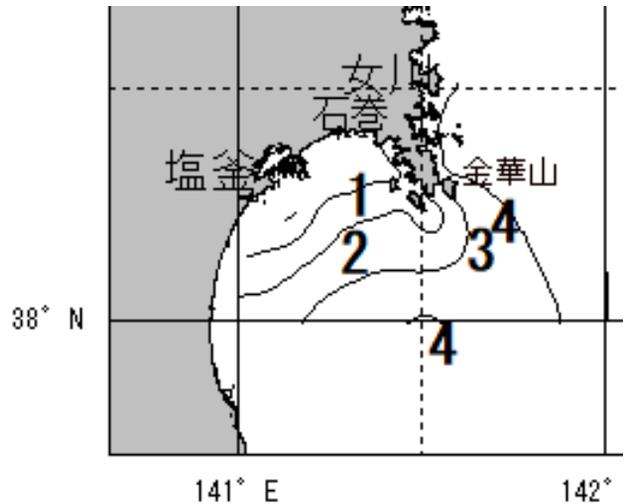


図2 表面水温平年偏差図  
(2024年11月8日～11月14日)

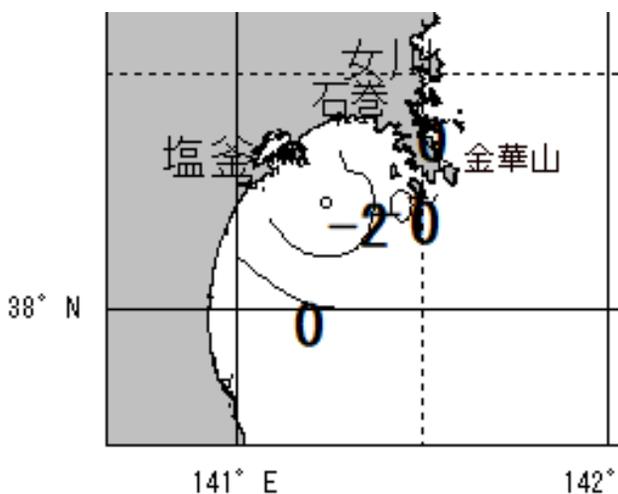


図3 表面水温前年偏差図  
(2023年10月30日～11月1日)

## 1 0m深水温分布状況

表面水温に比べ1℃程度高めで（図4）平年より2～4℃程度高くなっています（図5）。特に沖側が高くなっており暖水波及の影響が伺えます。

昨年同時期と比べると仙台湾内はほぼ同程度となっており、以前として水温が高い状況が続いています（図6）。

暖水の波及が継続すれば気温の低下に比べ水温の低下は緩やかになると思われます。

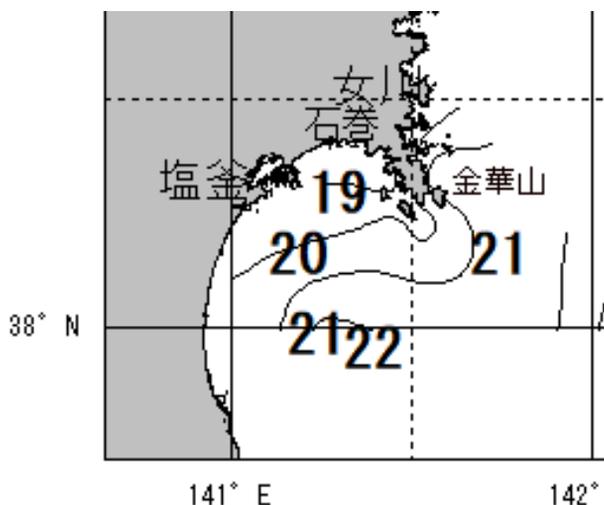


図4 10m水温分布図  
(2024年11月8日～11月14日)

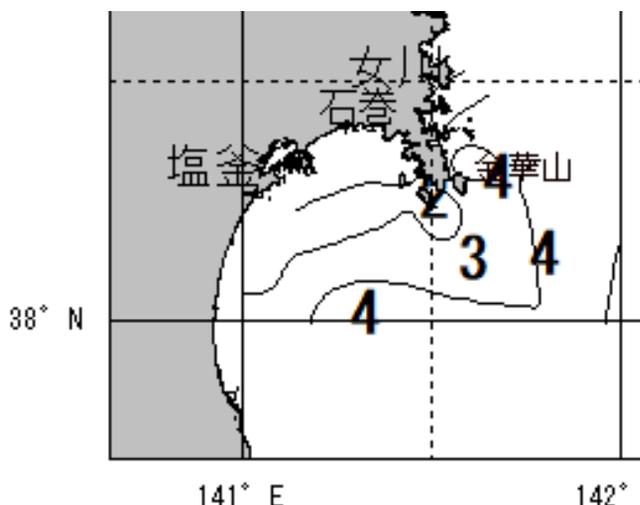


図5 10m水温平年偏差図  
(2024年11月8日～11月14日)

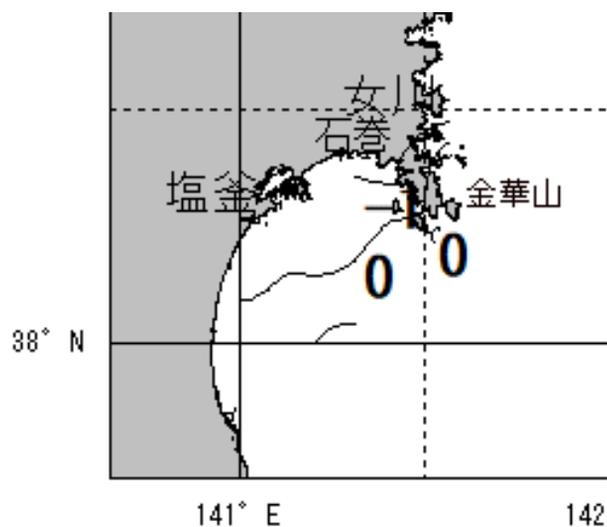


図6 10m前年偏差図  
(2023年10月30日～11月1日)

## 海底直上及び鉛直断面水温分布状況

暖水波及の影響を受け、水温は水深に応じ徐々に低下しています（図11）。そのため水深が浅い仙台湾内では海底でも20℃を超える海域が広く見られます（図10）。

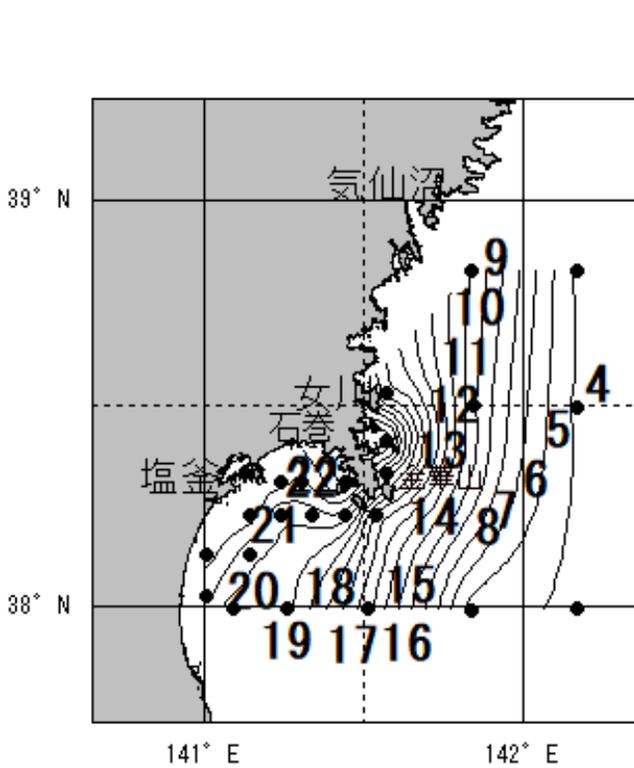


図10 海底直上水温分布図  
(2024年11月8日～11月14日)

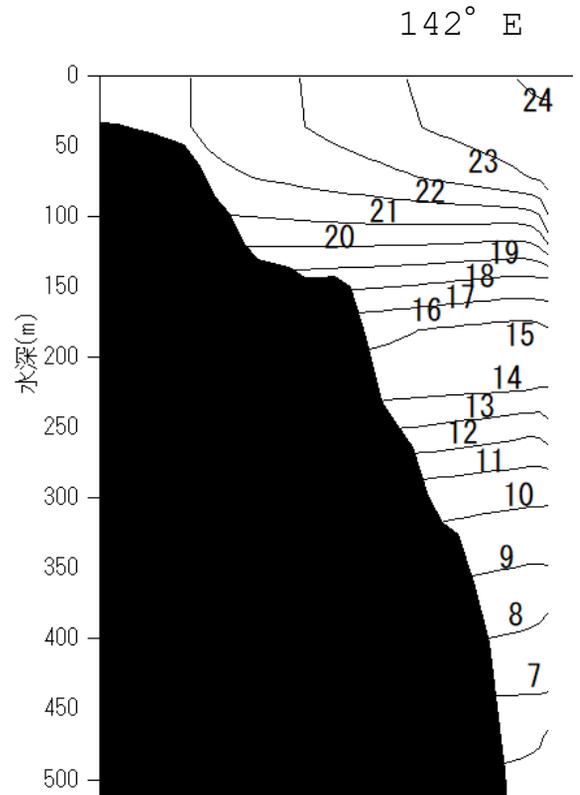


図11 水温鉛直断面図（北緯38度00分）  
(2024年11月8日～11月14日)

## 定置観測水温の状況

定置観測水温は何れも平年値よりは高いものの、昨年よりは低く推移しています。しかし、黒潮続流からの暖水の波及が続いていることから今後も注視が必要です。

	11 月上旬		平年差	前年差
	水温	状況		
気仙沼 (杉ノ下)	18.4	高め	2.1	-1.5
歌津	—	—	—	—
江島	18.4	やや高め	1.4	-1.3
田代島	19.1	高め	2.1	0.0
佐須浜	18.6	高め	2.1	-0.2
桂島	15.7	平年並	0.5	-1.6
亶理	18.4	高め	1.7	-0.1



### みやぎ水産NAVI

下記のグラフや日々の水温を見ることができます。

※—：メンテナンス中

